

2005年 中国の留学生受け入れ数について

— 6月5日付中国教育部新聞発表から —

6月5日付けで中国教育部より中国が受け入れた留学数が新聞発表されました。それによれば、2005年中の全留学生数は141,087人でその内、中国政府奨学金を受給している者は7,218人、自費留学生は133,869人となっています。2005年度の日本の留学生数は121,812人であり、すでに中国の方が約2万人ほど多くなりました。ここで発表された数字を下に図表化したものを以下に掲載しました。また、比較が可能であると思われる項目については、日本の2005年の留学生数も表示しました。(編集部)

1. 中国政府奨学金留学生数と自費留学生数

留学経費別	人数	割合
中国政府奨学金生	7,218	5.1%
自費留学生	133,869	94.9%
合計	141,087	100.0%

2. 長期・短期別留学生数

留学期間	人数	割合
長期留学生	103,712	73.5%
短期留学生(6カ月以内)	37,375	26.5%
合計	141,087	100.0%

3. 地域別留学生数 日中比較

地域別留学生数	中国		日本	
	人数	割合	人数	割合
アジア	106,840	75.7%	114,300	93.8%
欧州	16,463	11.7%	3,106	2.5%
北中南米	13,221	9.4%	2,949	2.4%
アフリカ	2,757	2.0%	957	0.8%
オセアニア	1,806	1.3%	500	0.4%
合計	141,087	100.0%	121,812	100.0%

4. 主要出身国(ベスト5) 日中比較

中国 受入国ベスト5			日本 受入国ベスト5		
主要国別留学生数	人数	割合	主要国別留学生数	人数	割合
韓国	54,079	38.3%	中国	80,592	66.2%
日本	18,874	13.4%	韓国	15,606	12.8%
米国	10,343	7.3%	台湾	4,134	3.4%
ベトナム	5,842	4.1%	マレーシア	2,114	1.7%
インドネシア	4,616	3.3%	ベトナム	1,745	1.4%
その他	47,333	33.5%	その他	17,621	14.5%
合計	141,087	100.0%	合計	121812	100.0%

<表1-5> 2005年度来華留学生統計データ <http://www.moe.edu.cn/edoas/website18/info20133.htm>

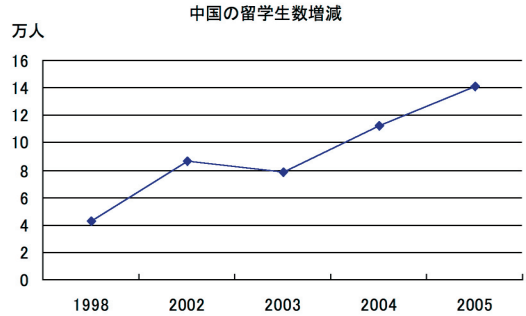
<表6> 曲徳林「中国における高等教育の発展戦略及び留学政策」『国際教育市場をめぐるアジア諸国の高等教育戦略に関する国際共同研究』(平成16～17年度文部科学省科学研究費最終報告書、研究代表：杉村美紀、2006年3月所収)

5. 学習分野別留学生数

分野別留学生数	人数	割合
文学	99,816	70.7%
(内 中国語)	86,679	61.4%
(内 芸術)	1,537	1.1%
医学	18,032	12.8%
(内 西洋医学)	9,605	6.8%
(内 中国医学)	8,427	6.0%
経済	6,665	4.7%
工学	4,455	3.2%
経営	3,555	2.5%
法学	2,906	2.1%
教育	3,236	2.3%
(内 体育)	547	0.4%
理学	741	0.5%
歴史学	755	0.5%
農学	380	0.3%
哲学	546	0.4%
合計	141,087	100.0%

6. 中国の経年留学生受入数

年	留学生数 (万人)	増減率
1998	4.3	-
2002	8.6	200%
2003	7.9	92%
2004	11.2	142%
2005	14.1	126%



7. 人民日報（海外版）2006年6月12日の関連報道

この発表を受け、人民日報海外版は6月12日の一面トップで以下の記事を掲載しています。

外国人は中国への留学と就職を目指す

- 中国の政治が安定し、急速に経済発展しており、国際的な影響力が日々高まっている
- 留学環境が改善され、居住や就学状況が適正化、国際化している
- 中国政府はより多くの外国人の在留と就職のため便利を図る政策を出している
- 2005年末で、すでに15万人程の外国人が中国で就職登録をしている

【新華社北京6月11日】

近年ますます多くの外国人学生が中国に留学し、また中国で働く外国人高級技術者や管理職の人数が増加の一途をたどっている。様々な要素により、いまや中国は外国人の留学先と就職の目的地となった。



中国教育部は2005年は中華人民共和国成立以来、外国人留学生数および留学生の出身国数が最多となり、留学生を受け入れた学校数も最多となったと発表した。データによると2005年、中国における外国人留学生の合計人数は

14.1万人あまりで、前年度に比べ27.28%増加した。その内、中国語を勉強する留学生の人数は86,679人であった。

中国留学基金管理委員会秘書長の張秀琴氏によれば「中国の政治は安定し、急速に経済発展しており、国際的な影響力が日々高まっている。さらに近年中国の高等教育が外国の大学や若者に徐々に認知されてはじめていますので、今後ますます多くの外国人留学生が中国への留学を希望するだろう。」と述べている。

韓国人留学生 洪昌宇は現在、北京語言大学で中国語を勉強している。彼女はまだ流暢ではない中国語で「いま、たくさんの韓国の友人が中国へ勉強しに来ようと考えている。なぜなら、韓国では中国語の用途はますます広がっていて、多くの貿易会社は社員に中国語を話せるよう要求しているから」と語っている。

張秀琴氏は「全体的に中国の留学環境は改善され、留学生の居住、就学、医療保険などについて適正化され、国際化している。例えば、以前は留学生は校内の寮に住むべきであるという議論があったが、現在では留学生が自由に選択できる」と指摘している。

他の国と比べて、中国の留学費用が比較的安くむことも中国に留学生を引きつける重要な理由の1つとなっている。

しかし、張秀琴氏は「中国は留学生の受け入れ面でまだ不十分な点がある。」と考えている。ここ数年、働きながら勉強できるということが中国の留学ブームを作り出している面もあるが、同時にそれは難点の1つでもある。中国は2000年に1つの外国人学生受け入れ問題に関する文書を発表した、それに関わる詳細な規則については未だ公表されていない。

教育部の統計データによれば、1950年から

2005年末までに中国が受け入れた各種留学生の総数は合わせて884,315人であったという。留学生たちは主に中国語、医学、経済、工科、管理、法学、教育、理科、歴史、農学、哲学などを専攻した。

一方、中国労働部および社会保障部のデータによれば、2005年末までにすでに15万人程度の外国人が中国各地で就労しており、彼らは主に日本、韓国、シンガポール、アメリカ、ヨーロッパ諸国から来ている。

アメリカ人 クリスティアン・ケントはあるメディアコンサルティング会社のマネージャーで、中国で働いてすでに10年になる。彼は「外国人は中国で仕事を見つけるのはさほど難しくはないが、ここで自分の事業を始めようとするのは比較的困難である。各種審査手続きがかなり面倒だから」と語っている。

より多くの外国人に中国での在留や就職を奨励するため、2004年8月、中国公安部と外交部は『外国人在華永久居留審査（永住ビザ）管理方法』を公布施行した。これにより2005年9月30日までに、アメリカ、カナダ、シンガポール、オーストラリアなど合わせて33カ国の649人がいわゆる中国の「グリーンカード」である外国人永久居留証（永住ビザ）を取得している。

【写真の説明】

2006年5月、上海で第1回目の外国人文化教育専門家のための就職説明会が開催された。それは上海で初めて行われた外国人に対しての求人募集で、多くの求職者が参加した。写真は求職中の外国人の専門家（右）

（日本語訳・編集部）